

崎 定 長 検

一級 さん

Vol.41

今、思うこと、伝えること
そして笑顔を届けること

矢島 大志 さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー！

その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。

ざっくばらんに寄稿願いました。

遙か遠くの存在だった1級に合格したことで、寄稿の機会をいただいたことに感謝するとともに、思うこと、感じたこと、そして見えてきたことが二つあります。

一つは、長崎のまちは、よく「和華蘭」や「パッチワーク」のまちなまぢだと思いが、「ミックスサラダ」のようなまぢだと思いが、それは、それぞれの素材が、その特徴を活かしながら、ソフトに絡み合って（多文化の融合と共存・共生）、絶妙な味や食感（風情・景観・方言等）を醸し出しているからです。

二つ目は、長崎開港に伴う南蛮貿易やキリスト教の布教をはじめ長崎の歴史や文化は、日本史と世界史に密接に関わっているとつくづく感じます。「長崎」と「日本・世界」を両方向から見ることで、長崎の事象がどうして起きたか、その背景がよくわかり、歴史認識が深く理解できるからです。

これらのことを踏まえ、長崎のまぢの潜在力・凄さや誇れる魅力を、県内外の人に広く伝えていくことが大切だと考えています。

そのために、私は、現在行っている介護施設や高齢者サロン等での介護レクリエーション（ボランティア）や長崎さるくガイド・平和ガイドの際に、長崎のまぢのすばらしさを伝えるようにしています。

これらの取組は、まだ小さな活動に過ぎませんが、「ありがとう」の言葉を励みに、もつと笑顔を届けられるよう話のテーマや内容を工夫するとともに、活動の輪を広げていきたいと思っています。

それから、長崎の歴史を学ぶ者として関心が高い「県庁舎跡地の活用策」について。この地は、長崎のまぢの原点、ヘソであり、長きにわたり長崎の統治をしてきた場所であったことは言うまでもありません。

歴史を物語る遺構の保存はとても重要ですが、併せて、ここには様々な分野で活躍した人が存在したという「人（ひと）」の視点も忘れてはいけないと考えます。

この長崎奉行所西役所からスタートした海軍・医学・語学（後の英語）の各伝習所は、外国の教授陣による明治日本の近代化を主導する人材養成の場でした。

また、江戸時代、長崎は、全国各地から多数の遊学者が、外国人や通詞等から、最新の知識や技術を苦悩しながら習得していくという『師弟による真剣な人間ドラマ』が繰り広げられた舞台でもありました。

さらに、長崎居留地の外国人達の多大な貢献により、長崎は近代産業や学校教育等の先駆けの地となり、国際貿易都市として発展しました。これらの歴史には、人と人による交流の物語が

あり、長崎は、人を通じて日本全国や世界各国とつながっています。正に、他にはない長崎のオリジナルな特性です。

このようなことから、県庁舎跡地が、長崎に関わりのある国内外の先人達を偲び、その活躍や足跡を辿れるメモリアルなデザイン性の高い場所となってほしい。

そして、市民をはじめ日本、さらには世界の誰もが訪れる、賑わいのある『長崎ゆかりの人の聖地（シンボル）』として、いつまでも光り輝いていくことを願ってやみません。

最後に、我がまち（長崎）の歴史等を再認識することで、長崎の良さや住んでいることを誇りに思う人が、もつともつと増えるためにも、長崎検定試験制度を拡充し、存続していくよう関係者の皆様の更なるご尽力をお願いします。



【プロフィール】

- ・1954年生まれ 南島原市（有家町）出身
- ・定年退職後、レクリエーション介護士2級の資格取得
- ・現在、長崎市介護施設ボランティア、シルバー元気応援サポーター、健康づくり推進員
- ・H29年～長崎さるくガイド、H30年～平和ガイド
- ・長崎のまぢのすばらしさを伝えること、地域社会のお役に立てばとの思いから、「一隅を照らす」活動に取り組んでいます。